

現在の制度（受入上限、抽選）の検証について

< 現行の制度：令和元年度入学 >
選択希望状況と通学区域外の入学者

学 校 名	抽選校		入学者
	通学区域外からの 受入可能人数	通学区域外 からの希望	
1 旭丘	40	10	8
2 豊玉	40	9	6
3 豊玉第二	40	23	15
4 中村	40	51	29
5 開進第一	40	29	18
6 開進第二	40	86	33
7 開進第三	40	48	24
8 開進第四	40	27	19
9 北町	40	19	14
10 練馬	40	21	18
11 練馬東	40	45	33
12 貫井	40	19	12
13 田柄	40	52	40
14 豊溪	40	8	3
15 光が丘第一	40	86	33
16 光が丘第二	40	80	32
17 光が丘第三	40	47	29
18 石神井	30	96	22
19 石神井東	40	62	37
20 石神井西	30	31	23
21 石神井南	40	16	9
22 上石神井	40	45	27
23 南が丘	40	7	5
24 谷原	20	21	16
25 三原台	40	29	20
26 大泉	30	106	28
27 大泉第二	40	27	21
28 大泉西	40	4	4
29 大泉北	40	37	30
30 大泉学園	40	61	46
31 大泉学園桜	40	10	9
32 関	40	18	16
33 八坂	40	1	1
合計	1,270	1,231	680

< 仮定1 >
40人(補欠含め80人)受入の場合

入学者	現行との差
8	0
8	2
19	4
41	12
24	6
64	31
39	15
22	3
16	2
17	1
36	3
16	4
42	2
7	4
64	31
64	32
38	9
36	14
50	13
25	2
13	4
36	9
6	1
17	1
24	4
36	8
22	1
4	0
30	0
49	3
8	1
15	1
1	0
897	217

< 仮定2 >
20人(当選25人)受入の場合

入学者	現行との差
8	0
8	2
19	4
20	9
20	2
20	13
20	4
20	1
16	2
17	1
20	13
16	4
20	20
7	4
20	13
20	12
20	9
20	2
20	17
20	3
13	4
20	7
6	1
17	1
20	0
20	8
20	1
4	0
20	10
20	26
8	1
15	1
1	0
535	145

仮定1の影響

- 通学区域外生徒の割合と学級編制
○A中の場合
区域外の割合) 39.3% → 55.7%
学 級) 84人で3学級 115人で3学級

通学区域外生徒の割合が50%を超える学校が増える可能性がある。
- 通学区域外生徒の合計人数
680人 → 897人(217人増→指定校から希望校へ)
仮に指定校1校あたり約7人減とすると
B中の場合 47人(2学級) → 40人(1学級)
C中の場合 122人(4学級) → 115人(3学級)

学校によっては学級数が減少する場合もある。
- 抽選校数
7校 → 4校
選択した学校に入学できる生徒が増える。

仮定2の影響

- 通学区域外生徒の割合と学級編制
○D中の場合
区域外の割合) 30.9% → 16.3%
学 級) 149人で4学級 123人で4学級

通学区域外生徒の割合が減少する。
- 通学区域外生徒の合計人数
680人 → 535人(145人減→指定校に入学)
仮に指定校1校あたり約5人増とすると
E中の場合 36人(1学級) → 41人(2学級)

学校によっては学級数が増加する場合もある。
- 抽選校
7校 → 19校
抽選校が増加し、選択した学校に入学できない落選者が増える。

入学者：希望者数(または受入枠) × 0.8(国私抜け)
受入枠の場合：受入40人(補欠込み80人) 64人